

# 2015年東北の予感

朝日新聞・東北大学共同企画



創立100周年 ①

4年に一度の統一地方選が行われる今年、団塊世代(47~49年生まれ)の退職ラッシュが始まる。東北からは集団就職などで50万人程度が転出したが、そのほとんどは東京周辺から離れそうにない。都市の団塊が地方に何の変化をもたらさないまま、地元の団塊が2015年に現役を完全に退く。その時、東北の産業や医療、教育、地方自治はどうなっているのか。また、地域を取り巻く問題について地方議員はどう考えているのか。今夏創立100周年を迎える東北大学とともに、東北の将来像を探る。(東北6総局取材班)

# 経済停滞免れず

2015年、日本社会は一つの転機を迎える。経済成長を担ってきた団塊世代が生産年齢人口(15~64歳)から退場し、社会を支える側から社会に支えられる側に転じるからだ。総人口の5・3%を占める団塊の移

動により、我々は65歳以上の高齢者が人口の4人に1人以上を占める超高齢化社会に直面することになり、社会を維持する上で試験の時を迎える。東北地方も例外ではない。05年の国勢調査によると、東北6県の人口は

963万4917人。このうち団塊世代は49万7764人。5・2%という大きな人口の塊が労働市場から外れる。その時、東北の経済社会はどういう姿になるのか。

## 働き手大幅減

マクロ指標から東北経済の将来像を予測してみると、85年に約652万人を数えた東北の生産年

## 大和総研試算 生活向上 地域で格差

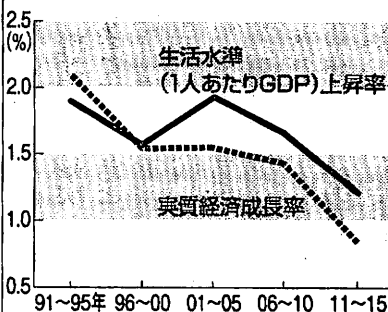
### 魅力的な都市ランキング

順位	圏域	15年の生活水準 (00年を100とする)
1	山形県 長井市	130.41
2	福島県 白河市	130.35
3	福島県 喜多方市	129.70
4	福島県 二本松市	129.03
5	宮城県 大崎市	128.98
6	山形県 東根市	128.95
7	山形県 米沢市	128.30
8	山形県 南陽市	128.04
9	山形県 新庄市	128.03
10	福島県 会津若松市	128.00
24	山形市	124.95
25	盛岡市	124.94
28	福島市	123.50
29	青森市	123.34
30	仙台市	123.11
32	秋田市	122.02

人口1万人以上の地域を含み、中心部への通勤率が一定以上の圏域。一部、合併後の新市名を採用。労働生産性が年率2%向上すると仮定し、生産年齢人口などの見直しから大和総研が試算した。

その先に経済水準の停滞が待ち受けている。労働生産性が年に2%ずつ高まると仮定しても、実質経済成長率、生活水準上昇率も01~05年を境に激しく低下していく。11~15年の実質経済成長率は0・84%まで落ち込むIIグラフ。地域の発展がほとんど望めず、生活は現状維持が精いっぱいになるかもしれない。

### 東北の経済水準はどうなるか?



01~05年以降は試算。県内総生産の先行きは、労働生産性の上昇率を年率2%と仮定し、生産年齢人口の増加率を加味して算出。内閣府、社人研資料による大和総研作成のグラフから

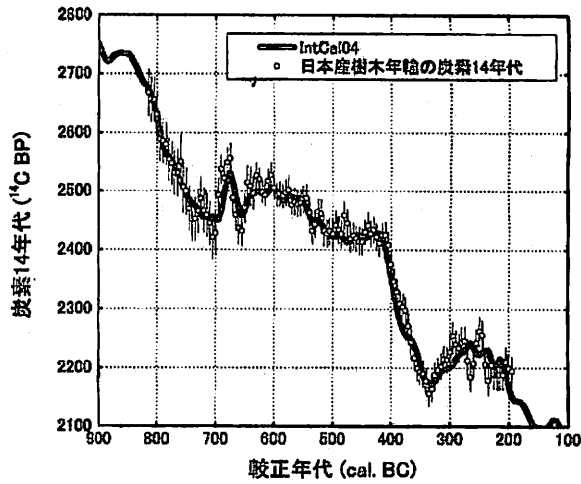
## 産業が力ギに

細かく見れば、生活水準が今よりかなり上昇する地域もあるII表。自治体の財政力を勘案せずに集計すると、製造業などが盛んで生産年齢人口の低下幅が小さい地域が上位を占める。

山形県長井市周辺(飯豊町、白鷹町含む)はロボット産業が育ち、農協系薬品メーカーの所在地であることからトップになった。町の活力を高める力ギは「産業や公共施設を集め、働き手が地域に魅力を感じるような施策を打てるかどうか」(大和総研の鈴木準・主任研究員)にありそうだ。

変わるのは経済水準だけにとどまらない。地域社会の基本的なしくみがほころびそうな兆候が、各地に現れ始めている。そこから見える2015年の東北の姿を、次回以降展望してみたい。

# 文化



加速器質量分析法(AAM S)を用いて、弥生時代の精度の高い年代作りを進め

出した。最大の難点とされた紀元前8〜前5世紀ごろの年代較正(補正)に見通しが立ったのだ。歴博が先月開催した国際シンポジウムで藤尾慎一郎・助教(考古学)が報告した。AMSで測定するのは、一定の割合で減っていく性格のある放射性炭素だ。どのくらい減ったかを測ることで年代を割り出す。一方、放射性炭素は宇宙線の働きで発生するが、宇宙線は時代ごとに強弱があり、放射性炭素の発生量も変動する。正確な年代を得るにはその点を考慮した較正が

とてころが、国際曲線は前8〜前5世紀付近でほぼ水平に推移し、年代を絞り込めないケースがある。歴博は北部九州で「弥生文化」水田稲作が始まったのは従来の定説より500年古く、前10世紀にまでさかのぼると主張しているが、それに続く弥生時代の早い段階の土器を測ると前5〜前4世紀ごろの年代になってしまふ。隔たりがあまりに大きくなるとAMSは信用できない」との批判の声が出ていた。

この問題を解決するためには歴博は日本独自の較正曲

材を使い作業を進めてい

代をめぐってこれほど議論され、集約的に測定されたのは、世界でも例はないでしょう。独自の曲線というより、国際曲線でカバーできなかった部分の精度を高めたと考えてください」と今村さんは説明する。歴博の新しい年代観にはなお異論は存在するが、この曲線ができればプロジェクトは山を越える。「当初は大きいと感じた考古学と自然科学の間の溝は、相対的に埋まってきたのではないだろうか」と大賀静夫・東京大教授(考古学)は語っている。(渡辺延志)

## 研究への情熱

「時には日本の学説が当を得ているのとはどう議論さえあるんですか」。大同江沿いに築かれた高句麗長安城を案内しながら彼は淡々と北朝鮮の学界の様子を話してくれた。私はCOEプログラムの担当者とて、中国東北地方から朝鮮半島に至る地域文化の特色を、中国文明とのかかわりのなかで解明するこ



李成市

研究に従事してきた。作業仮説として「楽浪地域文化」と規定する中で、朝鮮文化を自明視せず、漢の武帝による楽浪郡設置以来、急激に押し寄せた中国文明とこの地域の国家形成や地域文化の成立過程をとらえられないかと構想してきた。そのため、楽浪文化の根源の地ともい

うべき平壤を訪れてみたいと願っていた。南の高句麗史研究をどのよ

うに評価していますかと尋ねると、「豊かな想像に満ちているが、実証性に乏しいのでは」。そして「私は今は高句麗故地に生きているから、高句麗史研究で負けるわけにはいかないんです」と付け加えた。内に秘めた研究への情熱と、冷静に自分の考えを事物に即しながら語る姿が脳裏によみがえる。(早稲田大教授)